

第2図 早期稲跡の飼料作物栽培例

月別	6.7.8	9	10	11	12	1	2	3	4	5
例	1 2 3 4 5 6 7 8 9 10	青刈デント				エンバク		ベッチ		
		カブ	大根			青刈		ナタネ		
		青刈デント			ム			キ		
		青刈蚕豆			ム			ギ		
		カンラン			ム			キ		
		秋バレイシヨ			エンバク			ベッチ		
		カンラン					春バレイシヨ			
		白炭					青刈		ナタネ	
		カブ			大根				春バレイシヨ	
		レンゲ					イタリヤン			

か、また安価に与えられるかが大切なことである。

この根本的な考え方として基礎飼料は粗飼料(草飼料)でまかない、補充飼料として濃厚飼料(ヌカ類)を使う。したがってほとんど大部分を草で与えることになる。

育成時代から草を十分喰わしておけば、良質粗飼料だけで大体二〇石〜二五石は搾乳することができる。前記必要栄養量を充たすには、マメ科の草二五キ(六貫)イネ科四〇キ(一〇貫)計約六五キ(一六貫)を必要とする。

今これを生産費の立場からみると、草飼料の場合と濃厚飼料給与の場合との比較ができる。

酪農経営上C例の場合が望ましい。そこで早期晩期普通作の各三分の一ずつ計三〇キで約二、五〇〇キの青刈類を収穫し得て十一月から五月までの七カ月間、毎日六〇

キずつ二頭の搾乳牛に給与し得られることになる。(イネ科・麦科・根菜の混合)六月から十月までは毎月一頭六〇キの雑草二頭で二二〇キの草を刈取るが、野菜屑、イモヅル等が手に入りやすいのでまかなう、あるいはこの分も飼料作として準備するためにはソルゴウかテオシントなどの夏作青刈作物を播きつけておいて、三回刈りを行い給与することが出来る。これらの栽培設計については第三図のとおりである。

この場合、一区の早期稲跡の青刈りデントコーンは暖地での短期間最大多数の作物で九月上旬播種、十一月月上旬の約六〜七十日で四、〇〇〇キの収量が得られる。この期間は大螟虫の被害も全然なく、当初の成育は良い。初霜の降るまでに刈取りサイレーシに詰める。

5 飼料作物のバラ播栽培

青刈りデントの播種は畦作りをして点播または条播を行ったのであるが、最近の実際の結果からバラ播き、バラ栽培の方が多取である。耕耘器で表土を攪拌し同時に堆厩肥その他の基肥を施し種子を全面撒布する。青刈類ではデントコーンに限らず管理作業を行うまでに刈取るので、このような傾向があり今後の研究を要する。

6 混播の方法

混播割合が適当で施肥量が適当な場合に

第3図 暖地水田酪農飼料栽培設計図

	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
1区	早期稲	青刈デント	エンバク	ベッチ	普通稲												
		3750キ	700	3750													計8250キ(2200メ)
2区	普通稲	イタリヤン	ライ	レンゲ	早期稲												
		4500キ	1125														計5625キ(1500メ)
3区	早期稲	飼料カゴ(カンラン)	青刈デント	晩期稲													
		7500キ	3750														計9375キ(3000メ)
	ソルゴ	テオシント	雑草時														合計25,125キ(6700メ)

はイネ科のものとマメ科のものを別々に作った場合より混播の場合が収量が多くなる。

前表のデント跡作エンバクベッチの混播は畦作り栽培を行う、播幅は広く三〇センチとす。一般にエンバクの割合を多くしてベッチを少なくするのでベッチがおおされて発育が悪い場合が多い。播種割合は一〇キ当りエンバク三・六キ、ベッチ九キぐらいの割合とする。この場合の肥料は窒素はほとんど与えず、できぐあいを見て、追肥と

してエンバクのできの悪い場合に、一〇キ当り一〇キ〜一五キを施すようにする。冬期二度刈りした場合に寒いところでは枯死株ができる。このような地方ではイタリヤンライグラスを混播しておくといよい。

二区の普通稲の立毛中にレンゲとイタリヤンライの混播をする。これにレッドクロパー、アルサイクローパーなどの三種混播を行うのが良い。特長としてレンゲだけでは一般に収量が少いが、イタリヤンライやレッドクロパーを入れるとずっと収量が多くなる。レンゲの刈取時期に第一刈りを行い田植前までイタリヤンライやクロパーの再生力をねらって最後の刈取りを行うので約六、〇〇〇キの収量が得られる。混播の割合はレンゲ二キ、イタリヤンライ一・五キまたはレンゲ一・五キ、レッドクロパー一・五キ、イタリヤン一・五キ程度幾分湿地ではアルサイクローパーが良い。

7 稲間の中播き法

普通稲作や晩期作の場合では、稲の刈取後に播種したのではおそくて収量が上らない場合に稲の立毛中にバラ播きする。この方法では稲を刈取って除くまでは、日光や風通しが悪く、糸のように軟弱な成長をするので、長い期間かはえて良くない。しかし稲の刈取後は早く健全な状態に戻る。エンバク、ベッチの場合でも、レンゲとイタリヤンの場合でも、稲の刈取後肥量一〇キ当り硫酸一五キ、過石三〇キ、塩加一〇キ程度を行うと順調な発育をするようになる。中播期は九月下旬から十月上旬頃